

ダニール・トリフォノフ

2024年
4/11(木)19時
サントリーホール

Thursday, April 11, 2024 at 7 p.m.
Suntory Hall, Tokyo

4/14(日)15時
住友生命いずみホール(大阪)

Sunday, April 14, 2024 at 3 p.m.
Sumitomolife Izumi Hall, Osaka

ラモーン:
新クラヴサン組曲集から 組曲 イ短調 RCT5
Rameau: Suite in A minor, RCT 5

モーツァルト:
ピアノ・ソナタ第12番 へ長調 K. 332
Mozart: Piano Sonata No. 12 in F major K. 332

メンデルスゾーン:
厳格なる変奏曲 二短調 op. 54
Mendelssohn: Variations sérieuses in D minor op. 54

ベートーヴェン:
ピアノ・ソナタ第29番 変ロ長調 op. 106
「ハンマークラヴィア」
Beethoven: Piano Sonata No. 29 in B-flat major
op. 106 "Hammerkravier"

(4/11)S¥10,000 A¥7,000 B¥4,000

(4/14)S¥9,000 A¥6,000

ピアノ・リサイタル

4/12(金)19時 紀尾井ホール

Friday, April 12, 2024 at 7 p.m. Kioi Hall

["Decades"]

ベルク:
ピアノ・ソナタ op. 1 (1907-08年作曲)
Berg: Piano Sonata op. 1 (1907-08)

プロコフィエフ:
風刺(サルカズム) op. 17 (1914年作曲)
Prokofiev: Sarcasms op. 17 (1914)

バルトーク:
戸外にて (1926年作曲)
Bartók: Out of Doors (1926)

コープランド:
ピアノ変奏曲 (1930年作曲)
Copland: Piano Variations (1930)

メシアン:
「幼子イエスの注ぐ20の眼差し」から
幼子イエスの接吻 (1944年作曲)
Messiaen: "Le Baiser de l'Enfant-Jésus" from
Vingt regards sur l'Enfant-Jésus (1944)

リゲティ:
「ムジカ・リチェルカータ」から
第1、2、3、4番 (1951-53年作曲)
Ligeti: Musica ricercata, excerpts (No. 1, 2, 3, 4)
(1951-53)

シュトックハウゼン:
ピアノ曲IX (1955年作曲)
Stockhausen: Klavierstück IX (1955)

J.アダムズ:
中国の門 (1977年作曲)
J.Adams: Chinese Gates (1977)

コリリャーノ:
ファンタジア・オン・オスティナート (1985年作曲)
Corigliano: Fantasia on an Ostinato (1985)

S¥9,000 A¥6,000

Photo: ©DarioAcosta

底知れぬ天才がもてる力を結集して挑む、 ピアニストにとってのエベレストと20世紀のピアノ作品史

現代の若手アーティストにはなんと優秀なピアニストが多いことか。中でも、ショパン・コンクール第3位、チャイコフスキー・コンクール優勝者となれば、もちろんそれだけでもダニール・トリフォノフはとびきりの存在には違いなく、殊に実演で聴く今の彼には心底驚かされる。別格の天才？鬼才？

2023年2月の来日公演でもそうだった。トリフォノフの弾いたJ.S.バッハの「シャコンヌ」や「フーガの技法」全曲！バッハの抽象的で精緻な対位法音楽を、それに負けない精密さと色彩でいとも容易く弾きのけて、そこにはさらにその先へ向かわんと様々な感情を孕んだ「祈り」があった。この点でロシアの大先輩たち——たとえばリヒテル——の演奏に通じる、バッハと対峙するときのひたむきで熱量の高い祈りの感触を思い出さずにはいられない。曲によって瞑想となったり、激情的であったり、思わず凄いと眩いてしまうような異次元の時間と空間をトリフォノフは創り出した。

今回のプログラムにバッハはない。しかし一つにはバロックから古典、ロマン派、そしてピアニストにとってのエベレスト登頂にも似たベートーヴェンの「ハンマークラヴィア・ソナタ」(このフィナーレは対位法音楽の一つの極致だ)がそびえ立つ。そしてもう一つは《Decade》と名付けられた、20世紀のあまりにも多岐にわたって果てなき発展を続けた音楽史を10年毎に区切り、トリフォノフ独自の視点で切り取ったその時代の代表作を並べたプロ。それはかつて1995年に東京で行われた、21世紀の展望を得るために20世紀の音楽の歩みを俯瞰した「ブレーズ・フェスティバル」を想起させる。

今回のトリフォノフの来日公演も、21世紀を切り拓く歴史に残るだろう天才ピアニストによる一大フェスティバルである。

(A)



ダニール・トリフォノフ(ピアノ)

Daniil Trifonov, Piano

1991年ロシア生まれ。2010年のショパン国際コンクールで3位、2011年のルービンシュタイン国際コンクールとチャイコフスキー国際コンクールでは優勝を果たし、超一流の指揮者やオーケストラから引く手あまた、リサイタルはもちろん室内楽でも瞬く間に世界で頭角を現した。アルグリッチは「彼はすべてを、そしてそれ以上の優しさと悪魔的な一面を手に行っている。私は未だかつて、このような演奏を聴いたことがない」と語る。ラトル、ムーティ、ネゼ=セガン、ズヴェーデン、ゲルギエフらの指揮のもと、ウィーン・フィル、コンセルトヘボウ管、ロンドン響、シカゴ響、フィラデルフィア管、ニューヨーク・フィル、マリンスキー劇場管などと共演し、ウィグモアホール、ウィーン楽友協会、ベルリンのフィルハーモニー、パリのシャンゼリゼ劇場などでリサイタルを開いている。カーネギーホールから「パースペクティブ・シリーズ」全7公演の企画・出演を任せ、2018/19年シーズンはベルリン・フィルの、翌シーズンはニューヨーク・フィルのレジデント・アーティストを務めた。

ドイツ・グラモフォンと専属契約を結んでの録音も数多く、ネゼ=セガン指揮フィラデルフィア管とのラフマニノフのピアノ協奏曲プロジェクトやJ.S.バッハの「フーガの技法」を含む『バッハ：アート・オブ・ライフ』などはグラミー賞をはじめ、数多くの国際的な賞を受賞。

作曲も学び、2013年に自作のピアノ協奏曲が初演された際、クリーヴランド紙では「この卓越した芸術的手腕は実際に目の当たりにした後ですら、とても信じられない」と絶賛された。

「音楽の父」から「家族の父へ」。
世界を切り拓くピアニストが、J.S.バッハの知られざる姿をご紹介します！

Daniil Trifonov

ダニール・トリフォノフ バッハ：アート・オブ・ライフ

MQACD × UHQCD UCCG-45035/6 定価 ¥3,850(税込)

「音楽の父」J.S.バッハの最晩年の作品「フーガの技法」をはじめ、バッハの息子たちが書いた作品や、二人目の妻、アンナ・マグダレーナ・バッハに贈った音楽帳など、バッハの家庭に覗き込めるような曲目となっております。「フーガの技法 BWV1080」の未完成のフーガ「コントラプンクトゥス14」では、トリフォノフ自身がJ.S.バッハのスタイルを尊重し補筆完成して録音。J.S.バッハ最晩年の作品に、作曲家としての個性を加えるという挑戦を成し遂げています。



チケットのお申込み

カジモト・イープラス

検索

www.kajimotoeplus.com

カジモト・イープラス 050-3185-6728

※オペレーター対応(10:00~18:00)
ホームページからお申込みいただけます。

チケットぴあ <https://t.pia.jp>(Pコード: [4/11] 260-271, [4/12・14] 260-274)

e+(イープラス) <https://eplus.jp/>

CNプレイガイド www.cnplayguide.com

ローソンチケット <https://l-tike.com/>

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 [4/11](オペレーター対応 10:00~18:00 ※休館日は休業)

住友生命いずみホールチケットセンター 06-6944-1188 [4/14] (10:30~17:00 ※日・祝休業)



カジモト・イープラス

“kajimotomusic” で検索! @kajimoto_News @kajimotomusic

一般発売: 1/20(土) 10:00~

カジモト・イープラス会員限定先行受付: 1/11(木) 12:00~1/14(日) 18:00 先行受付専用番号 TEL: 050-3185-6713[10:00~18:00(初日のみ12:00より受付)]

- やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承願います。
- 未就学児のご入場はご遠慮いただいております。 ●団体料金のある公演もございます。詳しくはお問合せください。
- ご来場の皆様は安心してお聴きいただけますよう、感染症の防止と予防のための適切な対策に今後も引き続きご協力をお願い申し上げます。